

平成21年度
事業報告書

自 平成21年 4月 1日

至 平成22年 3月31日

財団法人大阪湾ベイエリア開発推進機構

【事業の概要】

近年、大阪湾バイエリアを中心に、液晶・プラズマパネルや太陽光パネル、リチウムイオン電池、ヒートポンプなど、低炭素社会の鍵を握る先進的な産業が集積してきている。また、堺市の臨海部では、本年11月の稼動を目指して大規模太陽光発電所の建設が進められている。

このような環境・エネルギー関連産業の集積と振興により、低炭素社会の実現に貢献する先進エリア「グリーンベイ・大阪湾」としての役割が期待されている。

一方で、大阪湾バイエリアが今後一段と発展していくためには、解決すべき課題も多く、陸・海・空の総合的な視野から、国際的な交通・物流インフラの整備や高質な産業空間の形成、さらにはアメニティ豊かなウォーターフロントの創造などを一体的に促進していくことが不可欠である。

当財団では、世界都市にふさわしい活力と魅力のある大阪湾バイエリアの創造を目指して活動を展開していくとともに、公益法人制度改革の流れに対応し、新たな組織への移行検討を進めている。

平成21年度に実施した事業の主な概要は下記のとおりである。

- 1 自主調査研究事業については、今日までの約20年間の大阪湾バイエリアの変遷を振り返り、大阪湾バイエリアの魅力と今後の展望を記すことを目的として、記念誌ならびに記念映像を作成した。
- 2 なぎさ海道推進事業については、「なぎさ海道ウォーク」の実施、「なぎさ海道」シンボルマーク・ロゴマークの使用についての規定の制定、平成20年度に助成を行った団体による市民活動助成団体報告会を開催した。
- 3 広報事業については、当財団の広報誌である「O-BAY」を年3回発行した。

I 管理運営活動

○ 会議等の開催

1 理事会

- ・第1回理事会 平成21年 6月16日(火) 於 リーガロイヤルNCB
- ・第2回理事会 平成22年 3月29日(月) 於 大阪国際会議場

2 評議員会

- ・第1回評議員会 平成21年 6月16日(火) 於 リーガロイヤルNCB
- ・第2回評議員会 平成22年 3月29日(月) 於 大阪国際会議場

3 運営委員会

- ・第1回運営委員会 平成21年 4月14日(火) 於 当財団会議室
- ・第2回運営委員会 平成21年 5月22日(金) 於 当財団会議室
- ・第3回運営委員会 平成21年10月 7日(水) 於 当財団会議室
- ・第4回運営委員会 平成22年 1月25日(月) 於 当財団会議室
- ・第5回運営委員会 平成22年 3月 8日(月) 於 当財団会議室

II 調査研究事業

○ 自主調査研究事業

1 記念誌「アジア・世界への飛翔～大阪湾ベイエリア開発の“これまで”と“これから”～」の制作

今日まで約20年にわたる大阪湾ベイエリアにおける開発整備の取り組みを、「インフラ整備と交通・物流」「開発整備と産業振興」「生活空間と環境創造」の3つの視点から振り返り、当財団の活動の概略とともに大阪湾ベイエリアの魅力と今後の展望を記すことを目的に、記念誌を制作した。

2 記念映像「輝き増す大阪湾ベイエリア～大阪湾ベイエリア20年の歩み～」の制作

記念誌同様、約20年間の大阪湾ベイエリアの変遷を振り返り、当財団の活動の経過と併せた記録として映像化し、大阪湾ベイエリアの魅力と可能性を広く社会にアピールすることを目的に、記念映像を制作した。

Ⅲ 「なぎさ海道」推進事業

1 「なぎさ海道」推進会議の運営

- (1) 幹事会 平成21年7月10日(金)
- (2) 代表委員会 平成21年7月13日(月)
- (3) 総会 平成21年7月30日(木)

2 「なぎさ海道」資源登録

「なぎさ海道」登録資源については、9箇所の追加登録を行い、平成22年3月末現在、588カ所となっている。

また、登録資源を「人と海とが豊かに触れ合う魅力ある海辺空間」の象徴として、当機構のホームページに掲載するなど、「なぎさ海道」理念の普及に努めた。

3 「なぎさ海道」シンボルマーク・ロゴマークの使用について

人と海が豊かにふれあう海辺空間を象徴する「なぎさ海道」のシンボルマーク・ロゴマークは平成12年に制定し、商標登録も行っている。

今回、ロゴマーク使用についての規定を定めるとともに、一層の海辺の空間利用の促進を図るため、法人・団体・個人でも申請様式をホームページからダウンロードできるようにした。

4 「なぎさ海道」ウォークの実施

市民の海辺利用を促進するため、登録資源と地域の名所を巡る「なぎさ海道」ウォークを実施し、参加者は約1万6千5百名(全35回)であった。

- (1) JR西日本の協力を得て、地方公共団体、NPO等の主催により実施した。
- (2) 南海・阪神・近鉄合同主催のTRY あんぐるウォーク並びに五私鉄合同主催のリレーウォーク、南海、阪神、山陽の各電鉄主催の臨海部を歩くハイキングを後援し、案内等に「なぎさ海道」シンボルマークを掲載した。
- (3) 大阪市住之江区役所等主催の臨海部をめぐるコースにも「なぎさ海道」ロゴマークを提供した。

5 「なぎさ海道」市民活動助成団体報告会の開催

「なぎさ海道」事業の理念にかなう市民団体等の諸活動に対し平成20年度助成金を交付した5団体から、活動についての報告会を下記のとおり開催した。

- (1) 日時 平成21年7月30日(木) 15:10~17:00
- (2) 報告団体名・助成事業名
 - ・ 特定非営利活動法人アマモ種子バンク(兵庫県西宮市)

「なぎさ海道」アマモ場再生プロジェクト

- ・ 特定非営利活動法人尼崎 21 世紀の森（兵庫県尼崎市）
「うんぱく！ 2008」－運河への理解促進とにぎわいの創出
- ・ きしわだ自然友の会（大阪府岸和田市）
「大阪・和歌山ベイエリアキャラバン・こんなに面白いなぎさ海道」
- ・ 国立公園成ヶ島を美しくする会（兵庫県洲本市）
「大阪湾漂流ゴミおよび成ヶ島漂着ゴミの実態調査」
- ・ 近木川流域自然大学研究会（大阪府貝塚市）
「海の幸から大阪湾を見る子ども交流会とフォーラム」

6 「なぎさ海道」情報発信力の充実

「なぎさ海道」に関する情報を、財団ホームページや広報誌「O-BAY」に掲載し、広報を行なったほか、「なぎさ海道」に関連するウォーク情報を見やすく工夫した。また、イベント等に協力参加し、パネルの展示やパンフレットの配布等を実施し「なぎさ海道」の紹介を行った。

IV 広報事業

1 広報誌の発刊

大阪湾ベイエリアに関する一層の理解を得るため、広報誌「O-BAY」第39号から第41号を関係者等へ配布した。誌面は、特集（ベイエリアにちなんだテーマに沿った地方公共団体等への取材その他）、地域開発やイベントについての情報提供、「なぎさ海道」の紹介、当財団の調査研究をはじめとする活動の状況等により構成した。

2 ホームページ

大阪湾ベイエリアの開発整備や当財団の運営に関する総合的な情報を提供するため、ホームページ上に、当財団の概要、大阪湾臨海地域開発整備法や大阪湾ベイエリア開発整備のランドデザインの掲載他、調査研究等に関する変更内容を逐次更新した。

また、「なぎさ海道」資源の登録データベースについて、地図情報から登録資源に誘導できるような掲載方法に変更し、個別登録資源の詳細なデータを掲載できるように工夫した。「なぎさ海道」ウォーク等のイベント、その他事業に関する各種情報についてもその都度掲載し、当財団の活動内容をタイムリーに紹介した。

3 イベントへの参加・協力

イベントへの参加・協力を通じて、当機構の活動内容を紹介し、大阪湾ベイエリアに関する理解を求めた。

(1) 第17回泉州国際市民マラソンへの後援

実施日：平成22年2月21日（日）

場 所：泉州国際市民マラソンコース

堺市浜寺公園 ～ 泉佐野市りんくう公園

内 容：ポスター、パンフレットへの後援名義掲載

(2) 第6回『ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム』への参加

実施日：平成22年3月6日（土）

場 所：大阪南港野鳥園・おおさかATC グリーンエコプラザ

内 容：「なぎさ海道」パネルの展示、パンフレット等の配布

V 新公益法人制度改革への対応

平成20年12月1日施行の新公益法人法への対応については、事務局で検討を行い、運営委員会等で理事団体事務局のご意見もいただいていた。

当財団を取り巻く環境には大阪湾臨海地域開発整備法の動静や、会員団体を取り巻く経済環境、さらには関西広域連合の設立動向など多くの変数が含まれることから、刻々と変化する環境に追従できる制度設計を前提に、一般財団法人への移行検討を進めることが、平成21年度第2回理事会（平成22年3月29日開催）において承認された。